

つなぐ



2019年02号

2019年9月6日

横浜市立北綱島特別支援学校

地域活動支援部

9月に入りました。雨が降ると肌寒く、晴れば30℃越え…と、温度差に身体がついていかない今日この頃ですが、保護者の皆様はいかがおすごしでしょうか。夏休みが終わり、ホッと?!されているかと思えます。給食も先週から始まり、学校にも活気が戻ってきました。今号では夏休み中に本校や地域で行われたイベントのご報告をいたします。

7/25(木) 「ポッチャにチャレンジ！」

本校初の企画として、地域の方向けの研修会としてパラリンピック競技で本校でも授業に取り入れているポッチャの体験会を行いました。

横浜市立若葉台特別支援学校校長で神奈川ポッチャ協会の会長の佐塚丈彦先生を講師に迎え、地域の方、北綱島小のお子さん、地域の小中学校の教職員、本校のお子さん、本校の教職員、約50人にご参加いただきました。

基本的なルール、投げ方、そしてチーム対抗のトーナメントを行い、大盛り上がり。絶妙な投球には「おーっ!!」と体育館中にどよめきがあがるほどでした。

この体験会をきっかけに北綱島小のお子さんと本校のお子さんとで合同チームを結成。9/7(土)の関東さわやかポッチャ大会に出場する予定です。

*合同チームについては、タウンニュース港北区版、神奈川区版(それぞれ9/5(木)号)に掲載されました。裏面に記事を印刷しましたので、ぜひご覧ください。

7/27(土) 北つな夏祭り

毎年、北綱島小を会場にして行われているお祭りです。地元のパパ友の会の方などが中心となって企画してくださっています。今年度も本校の児童生徒向けに、プレオープン時間を設けてくださっていて、混雑前にお祭りの雰囲気を楽しめるようにしてくださっていました。

ヨーヨー釣りやスーパーボールすくい、かき氷など、子ども会や北綱島小PTAの模擬店、小学校の児童のステージ発表があり、大盛況でした。夜には校庭での花火も行われ、存分にお祭りを楽しんでいたお子さんもうらっしゃいました。

夏休みに
本校や地域で
行われた
イベントです。

8/3(土) 幹 夏祭り

つるみ地域活動ホーム幹では、毎年『8月の第1土曜日』に夏祭りが行われています。今年も8月3

日に行われ、本校職員もボランティアで参加しました。

夏祭りでは、幹で作られている様々な製品販売、焼き鳥や飲み物などの各種出店、フラダンスショーなどが行われていました。フラダンスの音楽が流れる中、にぎやかな出店の掛け声、それを楽しむ人たちの声がたくさん聞こえてきました。地域の方々、利用者の皆さん、関係機関、様々な方が足を運び、夏の夜を彩るにぎやかな夏祭りでした。

7/30(火) つるみサマーフレンド

馬場地域ケアプラザで行われた「車いすの子や親同士もゆつたりのんびりコース♪」に参加しました。残念ながら、本校のお子さんの参加はなかったのですが、リトミックやスライム作りなど、みなさん楽しんでいらっしゃいました。保護者の方からは、夏休みの過ごし方や日頃の子育ての悩み、医療あるある?など様々なお話を伺いました。保護者の方もお子さんたちもゆつたりのんびりと和やかな時間を過ごされていました。

*「つるみサマーフレンド」とは、鶴見区内の障害のあるお子さんを対象にした余暇活動支援です。夏休み中に、さまざまなプログラムが行われています。

ボランティアさん、いつもありがとうございます。

本校では、地域の方がさまざまなボランティアとして、教育活動にご協力くださっています。ボランティアさんの活動についてご紹介します。

プールボランティア

プール活動の期間には、毎日ボランティアさんが来てくださっています。活動の合間の待ち時間に本を読んでくださったり、お話し相手になってくださったり、活動後には髪の毛を乾かすお手伝いをしてくださったりしています。

行事ボランティア

校外学習のときの心強い助っ人です。車椅子を押してくださったり、荷物カート運びや食事会場の準備をしてくださったりなど、ボランティアさんがさまざまなサポートをしてくださっています。

読み聞かせボランティア

月2回、お昼休み(13:00-13:20)に、読み聞かせをしてくださっています。小学部、中学部のクラスを順に回ってくださっています。

本校では随時ボランティアを募集しています。お知り合いの方などでご希望の方がいらっしゃいましたら、地域活動支援部ボランティア係までお知らせください。

裏面もご覧ください。



「チーム北綱」

学校の枠を超え 対外活動

ボッチャ大会に出場へ

横浜市立北綱島特別支援学校の生徒と市立北綱島小学校の児童が「チーム北綱」を結成し、9月に横浜ラポールで行われるボッチャの大会に出場する。日ごろ交流のある両校だが、学校を通じ児童生徒が合同で対外活動に臨むのは初めて。出場する4人は各々の言葉で意気込みを表わした。

合同チームが誕生したのは、主に肢体不自由の障がいのある児童生徒が通う北綱島特別支援学校が地域に呼びかけ、7月に開催したボッチャの体験会がきっかけ。

競技通じ心通わす

同校生徒や北綱島小学校児童、それぞれの教職員のほか、地域住民や地域の小中学校の教諭ら約50人が参加した体験会では、皆で競技のルールを学び、チームをつくりトーナメント戦も行った。



体験会の交流から結成された「チーム北綱」メンバー。右下から時計まわりにキャプテンの吉村さん、小野さん、北山さん、東海林さん

絶妙な投球には大歓声もあがり、応援にも力が入る盛り上がりぶり。その余韻が冷めやらぬ中、北綱島小の児童と保護者が特別支援学校の生徒と一緒に「一緒に大会に出場しないか」と声をかけ、「チーム北綱」が結成された。ボッチャは、目標球と呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたりして近付ける競技。ランプというボールを転がす道具を使うこともできる。「障がいの有無にかかわらず多くの人が楽しめるスポーツ」（特別支援学校の中島裕美教諭）で、パラリンピックの正式競技でもある。

（北山さん）、「初めてだけど頑張りたい」（東海林さん）とメンバーは意気込みを口にした。小野さんは「体を動かすことが大

好き。みんなと楽しみながら頑張る」とコメントを寄せた。監督としてチームを率いる特別支援学校の長

谷川寛教諭は「ボッチャを通して心が通じた。児童から声をかけてもらい、嬉しくて勢いで自分が申込書の代表欄に」名前を

書いてしまった」と感動しきり。同校の菊本純枝を通して輪が広がっていき、「日ごろから両校の交流はあるが、スポーツを通じて輪が広がっていき」と話していた。